

平成 27 年度 第 1 回 柔道整復学科 学校関係者評価委員会

- 日時：平成 27 年 9 月 16 日（水）19：00
- 場所：日本医学柔整鍼灸専門学校 102 教室
- 出席者：11 名
 - 伊藤 述史（公益社団法人 東京都柔道整復師会 副会長）
 - 深沢 篤（みさと接骨院 チーフ）
 - 道狭 浩子（ひろこ整骨治療室 院長）
 - 佐藤 和伸（佐藤代田整骨院 院長）
 - 小泉 利幸（三進興産 営業部部長）
 - 奥田 久幸（校長）
 - 岸本 光正（副校長）
 - 木下 美聡（学科長・議長）
 - 湯浅 有希子（学科教員）
 - 伊賀 久高（副校長付）
 - 松丸 浩子（事務次長）

<本日の議題>

1. 報告事項

- 「コンプライアンス（ハラスメント）勉強会」実施報告（前回の振返り）
- 「第三者評価、自己評価報告書」の概要説明
- 「キャリア支援」の活動報告

2. 検討事項

- 「「キャリア教育と支援」について
-

1. 報告事項

- 「コンプライアンス（ハラスメント）勉強会」
→教職員向勉強会（平成 26 年 6 月 25 日）、3 年生向勉強会（平成 27 年 3 月 2 日）
の実施報告。教材を通じ「個人情報」「関連法令」他内容を紹介。
- 「第三者評価、自己評価報告書」の概要説明
→私立専門学校等評価研究機構による第三者評価を受審、現在準備を推進中。審査会
の最終評価は平成 28 年 3 月末日の予定。
- 「キャリア支援」の活動報告
→一人ひとりに適したキャリア支援を目指した「職業理解」、「コミュニケーションスキル・アップ」、「進路指導」のためのセミナーや個別相談のプログラムを紹介。

2. 検討事項

<キャリア教育と支援について>

上記の議題について、下記のような意見が出された。

- 就職がゴールではない。地域に密着した治療院を開業するなど「学生に夢を持たせる」教育を。
- 柔整師、介護、開業など就職後の状況をフィードバックする仕組み、システムを。追跡調査していくとどのような進路が本当に良いのかが判るはず。
- 学生の時から施術所で働き技術を習う。それを研修と呼んでいる。アルバイトと思っているとお金が目的になってしまう。
- どんな施術所が、どんな人が生き残るのか。またどんな技術が生き残るのか。その答は、人を呼び込める力、人に好かれること。

(文責/伊賀)

平成 27 年度 第 1 回 鍼灸学科 学校関係者評価委員会

- 日時：平成 27 年 9 月 17 日（木） 15：00
- 場所：日本医学柔整鍼灸専門学校 305 教室
- 出席者：12 名
 - 伊集院 克（公益社団法人 東京都鍼灸師会）
 - 藤原 良次（株式会社アールエフ 代表取締役）
 - 菊池 優子（貴子鍼灸治療室 副院長）
 - 前田 真也（カリスタ株式会社 代表取締役）
 - 前田 千尋（カリスタ株式会社 院長）
 - 奥田 久幸（校長）
 - 岸本 光正（副校長）
 - 青木 春美（学科長）
 - 三村 聡（学科教員・議長）
 - 渡邊 靖弘（学科教員）
 - 伊賀 久高（副校長付）
 - 松丸 浩子（事務次長）

<本日の議題>

3. 報告事項

- 「コンプライアンス（ハラスメント）勉強会」実施報告（前回の振返り）
- 「第三者評価、自己評価報告書」の概要説明
- 「キャリア支援」の活動報告

4. 検討事項

- 「「キャリア教育と支援」について
-

3. 報告事項

- 「コンプライアンス（ハラスメント）勉強会」
→教職員向勉強会（平成 26 年 6 月 25 日）、3 年生向勉強会（平成 27 年 3 月 2 日）
の実施報告。教材を通じ「個人情報」「関連法令」他内容を紹介。
- 「第三者評価、自己評価報告書」の概要説明
→私立専門学校等評価研究機構による第三者評価を受審、現在準備を推進中。審査会
の最終評価は平成 28 年 3 月末日の予定。
- 「キャリア支援」の活動報告
→ 一人ひとりに適したキャリア支援を目指した「職業理解」、「コミュニケーションスキル・アップ」、「進路指導」のためのセミナーや個別相談のプログラムを紹介。

4. 検討事項

<キャリア教育と支援について>

上記の議題について、下記のような意見が出された。

- スポーツトレーナーとして心理面の支援も重要になる。スポーツ心理学、医療心理学の授業があればと考える。また、国際大会出場のスポーツトレーナーには英語が要求される。

(回答) スポーツ理論の講義にて取り入れていきたい。また外国語の重要性や楽しさを伝える講義を検討していきたい。

- 鍼灸師会からの情報が大変に役立つ。鍼灸師会と教職員の連携が大事。
- 鍼灸に対してのモチベーションに個人差がある。学生の中から鍼灸に対してのモチベーションが高いと年齢が若くても信頼されている。鍼灸を高めていける人が業界をリードしていく。
- Early exposure や見学会の受入先に学校の理念を浸透させ受入れてもらうようにされると良い。Early exposure が終わった後、面談をした方が良い。見学会も面談が大事。

(回答) 来年度は実施したい。

- 技を深めるとともに、問診で懐に入って「聴き出す力」が非常に大事。活躍している本校卒業生の一例だが、コミュニケーション力が高く「聴く力」があり、例えば、肩凝りが人生にとってどのようなマイナスになっているのかを聴き出している。
- 本校は（優秀な一部の人だけではなく）全員を掘り起こしているのが偉い。
- 現場としては、まず“人として”の教育が大切
- （進路相談されたなら）人として鍛えてくれる本校を推薦したい。

(文責/伊賀)

平成 27 年度 第 2 回 柔道整復学科 学校関係者評価委員会

- 日時：平成 28 年 2 月 17 日（水）19：10
- 場所：日本医学柔整鍼灸専門学校 102 教室
- 出席者：11 名
 - 伊藤 述史（公益社団法人 東京都柔道整復師会 副会長）
 - 深沢 篤（みさと接骨院 チーフ）
 - 道狭 浩子（ひろこ整骨治療室 院長）
 - 佐藤 和伸（佐藤代田整骨院 院長）
 - 小泉 利幸（三進興産 営業部部長）
 - 奥田 久幸（校長）
 - 岸本 光正（副校長）
 - 木下 美聡（学科長・議長）
 - 大隅 祐輝（学科教員）
 - 小杉 泰輔（事務部長）
 - 松丸 浩子（事務次長）

<本日の議題>

5. 報告事項

- 私立専門学校等評価研究機構による第三者評価受審について
- 卒業生の就労後の状況把握について

6. 検討事項

- 基準 3 教育活動（P28. 29）アーリーエクスポージャーについて
 - 基準 5 学生支援（P39）キャリア支援センター取組みについて
 - 日本医専 トレーナーチームについて（P48）
-

5. 報告事項

- 私立専門学校等評価研究機構による第三者評価受審について
→2 月 1 日に評価機構の先生方が来校され、ヒヤリングが行われたことを報告。現在、何点かの確認事項がきており、その対応を行っている。
- 卒業生の就労後の状況把握について
現在、キャリア支援センターのプログラムの中の「業界フェスタ」の冒頭、卒業生の生活等を卒業生の口から紹介してもらっている。そこで状況を知る程度。
その他の学生の追跡調査については、仕組みを検討中。

6. 検討事項

- 基準 3 教育活動（P28. 29）アーリーエクスポージャーについて

上記の議題について、下記のような意見が出された。

- ◆ 今の学生は接骨院に通院したことがないのに入学してくる。そのような学生に接骨院を理解してもらうためにも必要。
- ◆ 入学生の中には“整体”と勘違いして入学してくる学生がいる。
- ◆ “柔整”“接骨”を知らない学生には、そこから教えなくてはならない。そのためにも、早い時期から実施するのは必要。
- ◆ とても良い取り組み。
- ◆ 行く行くは2.3年生へとつなげてほしい
- ◆ 2.3年生に関しては、研修という位置づけにしてはいいのではないか。

● 基準5 学生支援 (P39) キャリア支援センター取組みについて

上記の議題について、下記のような意見が出された。

- ◆ 実施しているプログラムを紹介。学科との連携が取れていない現状を報告。
- ◆ 実施プログラムについて、下記のような意見が出された。
- ◆ 最終的な目標（開業）に関してのものがない
- ◆ 他の業種を見せる、というプログラムもいいのではないか。
- ◆ 外の世界を見せるというのも大切ではないだろうか。

(業界フェスタについての意見)

- ◆ チェーン展開をしている接骨院の参加が多い。
- ◆ 学生の参加者が多いと言うことは、チェーン展開をしている接骨院に就職を希望している学生が多いということだろうか。
- ◆ 就職先として考えている学生が多いということだろう。以前は、あくまでも研修先として捉えていたはず。学生の気質が変わってきているということだろう。
- ◆ 個人の接骨院が参加しやすいようにしてほしい。ただ、個人治療院は人を雇わなくなっているのも現状。でも学生を就職させてなくてはいけない学校側。難しい。

● 日本医専 トレーナーチームについて (P48)

→1月24日に発足したNITTを紹介。本校教員と卒業生を中心に活動予定。

トレーナーの知識を高め、行く行くはトレーナー職まで持って行きたい。認定資格も取りつつ、卒業生を巻き込み活動をして行きたい。

上記の議題について、下記のような意見が出された。

- ◆ とても良い活動だと思う。広がり大切にしてほしい。
- ◆ 学校の目玉としてやるべき
- ◆ 実績を積み、学校の特色にしてほしい。
- ◆ “トレーナー”という活動は、もともと柔整師が地域活動で行っていたこと。
- ◆ 柔道整復師会 世田谷支部では、支部を挙げてトレーナー活動を行っている。活動は市民大会から始まり、地域の体育大会にまで及んでいる。それらの現場はトレーナー不足。開業し支部に入れば、そういった活動はできる。その活動から患者も増えてい

く。そういった意味でも、トレーナー活動を行いたければ、開業を視野に入れるべき。

- 実際の活動の中で、応急処置が出来ない柔整師も多い。それらを学ぶ研修会を支部が実施し、派遣をしている。学校で研修会を行ってほしい。

☆ 次回：平成 28 年 9 月予定

(文責／松丸)

平成 27 年度 第 2 回 鍼灸学科 学校関係者評価委員会

- 日時：平成 28 年 2 月 18 日（木）15：10
- 場所：日本医学柔整鍼灸専門学校 001 教室
- 出席者：12 名
 - 伊集院 克（公益社団法人 東京都鍼灸師会）
 - 藤原 良次（株式会社アールエフ 代表取締役）
 - 菊池 優子（貴子鍼灸治療室 副院長）
 - 前田 真也（カリスタ株式会社 代表取締役）
 - 前田 千尋（カリスタ株式会社 院長）
 - 奥田 久幸（校長）
 - 岸本 光正（副校長）
 - 青木 春美（学科長）
 - 三村 聡（学科教員・議長）
 - 渡邊 靖弘（学科教員）
 - 小杉 泰輔（事務部長）
 - 松丸 浩子（事務次長）

<本日の議題>

7. 報告事項

- 私立専門学校等評価研究機構による第三者評価受審について

8. 検討事項

- 基準 3 教育活動（P28. 29）アーリーエクスポージャーについて
- 基準 5 学生支援（P39）キャリア支援センター取組みについて
- 日本医専 トレーナーチームについて（P48）

7. 報告事項

- 私立専門学校等評価研究機構による第三者評価受審について
→2 月 1 日に評価機構の先生方が来校され、ヒヤリングが行われたことを報告。現在、何点かの確認事項がきており、その対応を行っている。

2. 検討事項

- 基準 3 教育活動（P28. 29）アーリーエクスポージャーについて
上記の議題について、下記のような意見が出された。
 - ◆ 行きたい進路に合った治療院に見学したほうがいい。
 - ◆ 就職を見据えて行ってほしい。ミスマッチを防ぐため。
 - ◆ 目的を持って行かせてほしい

- ◆ 学生を能動的にするためにも、何を治療院で見たいかを書かせ、その目的に沿って見学をさせるようにしたほうがいい。
- ◆ 目的は自分自身で決めさせるべき

(2年生で実施をした場合、どのような目的が行うのがいいかに対して)

- ◆ 自分にとっての方向性を決めさせるために行う。
- ◆ 色々な分野の治療院を見学させて、その中から自分の将来像を描かせる。
- ◆ 2年生は情報が足りないとき、その情報を与える機会として捉えてほしい。

(2.3年生を連動させて考えると)

- ◆ 2年生は働きたい場所をさがす
- ◆ 3年生は働きたい場所を見に行く

(1.2.3年生を連動させて考えると)

- ◆ 1年生は鍼灸の甘いところをみせる
- ◆ 2年生は鍼灸のキツイところをみせる (現場の厳しさを知ってもらう)
- ◆ 3年生は鍼灸のキツイところを克服する

→学生を見て学校側が、鍼灸の甘いところ、キツイところのどちらを見せるかを決めてもいいのではないかな。

● 基準5 学生支援 (P39) キャリア支援センター取組みについて

上記の議題について、下記のような意見が出された。

- ◆ キャリア支援センターのプログラムと、アーリーエクスポージャーとの連携がうまくいっていないのでは。
- ◆ 実施プログラムは、現状、在籍中の学生のみのものである。卒業後のものも考えてはどうか。

(学生の就職に対する意見)

- ◆ 同窓会と連携をして、就職追跡調査を行った方がいい
- ◆ 国家試験後に就職活動を行うのは遅すぎる。夏までに決めるような指導をしてほしい。
- ◆ 学生の就職活動が遅いのは、どのように活動をすればいいかわからないのでは。
- ◆ 学生の3年間スケジュール (就職活動) をモデル化して伝えてはどうか。
- ◆ 学生も求人票だけだと、治療院の特色が分からず、就職活動がしにくいのではないかな。
- ◆ 求人票のフォーマットが同じだと、治療院同士の違いがわからない。フォーマットは、各治療院に任せ、治療院の特色を出せるようにした方がいいのではないかな。

● 日本医専 トレーナーチームについて (P48)

→1月24日に発足したNITTを紹介。本校教員と卒業生を中心に活動予定。

トレーナーの知識を高め、行く行くはトレーナー職まで持って行きたい。認定資格も取りつつ、卒業生を巻き込み活動をして行きたい。

上記の議題について、下記のような意見が出された。

- 現場の確保が大変だと思う。
- 学生のうちから参加させた方がいいのではないか
- 高校生でスポーツとしている生徒たちのトレーナー活動をしてもいいのではないか。
- 体育連盟と連携をして、部活のトレーナー活動を行っては。
- 鍼灸師会では、地域の大会のトレーナー活動をしている。
- 鍼灸師の中には、開業をしている地域の大会等のトレーナー活動をしている場合が多い。そこから患者へもつながる。
- トレーナー活動を行う鍼灸関係の公益社団法人もある。
- トレーナー活動を行うためには、技術だけではなく、「安全・安心」の知識も必要。リスクマネジメントや脱水に対する知識も持ち、トレーナー活動を行わなくてはならない。そのための講習会を鍼灸師会では行っている。学校でも、そのような講習会を行ってほしい。

☆ 次回：平成 28 年 9 月 15 日（木）予定

（文責／松丸）